

令和7年度 第2回 学校評価アンケート結果

1 実施期間

令和7年12月8日（月）～12月19日（金）

2 アンケート対象者

学部	事務部					小	中	高	合計
	事務長	職員	用務員	養護教諭	栄養教諭				
人数	1	3	6	2	1	41	29	44	127

3 実施方法

- web方式（classroom及び掲示板にQRコード等を貼付）
※ 事務職員は紙面にて回答後、係で入力している。
- アンケート開始日に、classroom及び掲示板で周知。また、4日前に掲示板、3日前から個別で提出の呼び掛けを行った。

4 回収率

100%（127/127名）

5 評価基準

評価4：十分達成できている（そう思う）	評価3：概ね達成できている（ややそう思う）
評価2：やや不十分である（あまり思わない）	評価1：不十分である（思わない）
評価0：分からない（答えられない）※	

※ 評価0は事務職員のみでの評価基準（関与しない項目があるため）。

6 評価点の出し方

評価値の平均値として下記の式で算出した数値で表す。

平均値とは、

$$\frac{(\text{評価}4 \times \text{評価者数} + \text{評価}3 \times \text{評価者数} + \text{評価}2 \times \text{評価者数} + \text{評価}1 \times \text{評価者数})}{\text{総評価者数}}$$

基準：達成に向けた取組が必要とする基準を平均値3.00未満とし、該当する各分野、項目等については分析を行い、達成に向けた取組についての検討を行う。

7 結果（平均値）

評価結果（全体及び分野別）

	全 体	安心・安全	指導・支援	地域連携	研修・サービス
第1回	3.15	3.22	3.08	3.12	3.19
第2回	3.18	3.26	3.16	3.14	3.16
年間平均	3.165	3.24	3.12	3.13	3.175

分野	番号	質問	項目平均		分野平均	
			第1回	第2回	第1回	第2回
安心・安全	1	私たちは、児童生徒が信頼を寄せる関係を築き、個性を尊重する生徒指導や教育相談に取り組んでいるか。	3.20	3.20	3.22	3.26
	2	私たちは、自分から進んで元気な挨拶をする態度や友達を思いやる優しい心を育てているか。	3.34	3.36		
	3	私たちは、家庭等と密な連携を図り、基本的な生活習慣の確立や健康管理、感染症予防などに取り組んでいるか。	3.25	3.30		
	4	私たちは、ヒヤリ・ハットや安全点検の情報共有、改善を確実にし、事故の未然防止に取り組んでいるか。	3.17	3.18		
	5	私たちは、医療的ケアの安全な実施や発作、けが、事故などへの迅速、且つ適切な対応を確実にしているか。	3.16	3.23		
指導・支援	1	私たちは、個別の指導計画を活用し、教科等が目指す資質や能力を育む系統的な指導を行っているか。	3.08	3.10	3.08	3.16
	2	私たちは、学習のねらい、評価の観点を明らかにし、学ぶ喜びを得られる授業づくりに取り組んでいるか。	3.09	3.09		
	3	私たちは、「主体的・対話的で深い学び」の視点に立った授業を目指し、指導や評価、改善に取り組んでいるか。	3.09	3.10		
	4	私たちは、日々の指導と評価を積み重ね、単元・題材を見直し、より良い教育課程の編成に取り組んでいるか。	3.06	3.09		
	5	私たちは、キャリア教育の視点に立ち、児童生徒の日常生活や社会生活に必要な力を育む指導を行っているか。	3.10	3.16		
地域連携	1	私たちは、個別の教育支援計画を活用し、保護者や関係機関等と連携して一貫した支援に取り組んでいるか。	3.15	3.13	3.12	3.14
	2	私たちは、人との関わりや体験を広げるために、地域資源の活用や交流及び共同学習に取り組んでいるか。	3.10	3.09		
	3	私たちは、生徒指導や進路指導等の充実を図るために、専門家や関係機関の力を積極的に活用しているか。	3.09	3.05		
	4	私たちは、地域の特別支援教育の充実のために、巡回相談や情報発信、就学相談などの充実に取り組んでいるか。	3.15	3.17		
	5	私たちは、学校評価や学校関係者評価委員会で教育課題を明らかにし、組織として改善に取り組んでいるか。	3.12	3.15		
研修・服務	1	私たちは、かごしま県教員等育成指標を基に、必要な資質を修得する研修を選択し、主体的に取り組んでいるか。	3.09	3.10	3.19	3.16
	2	私たちは、授業力や特別支援教育の専門性向上を目指し、授業を通じた協働的な学び合いを積極的に行っているか。	3.18	3.13		
	3	私たちは、授業力向上プログラムにおける自立活動の指導に関する研修に、主体的、協働的に取り組んでいるか。	3.13	3.13		
	4	私たちは、教育公務員として不祥事根絶を自分事として自覚し、服務規律に関する研修に真剣に取り組んでいるか。	3.35	3.37		
	5	私たちは、同僚との対話や支え合いを大切にし、働き方や業務の工夫・改善に取り組み、元気に働いているか。	3.20	3.17		

8 評価結果を受けた考察

(1) 評価結果

今回の評価における全体評価値は3.18であった。中間評価を受けて、各担当係で達成に向けた取り組みを検討、実践した。達成状況についての職員評価は概ね達成しているという結果である。

分野別の評価値も中間評価から継続し、基準値3.00を4分野とも上回っている。全体と同様に分野別の視点から見た評価項目達成の取り組みについては十分に取り組んでいると考えられる。

分野ごとの評価値を比較して見ると、

安心安全(3.26) > 指導・支援(3.16) = 研修・服務(3.16) > 地域連携(3.14)

となる。

分野別の評価値の中で「地域連携」が4番目の評価値となっており、地域連携に関する5つの質問の

うち、3つの質問において第1回より低い平均値となった。評価が下がった背景としては、自由記述から課題意識の表れではないかと考える。自由記述に、自身の知識不足や連携不足等を挙げている意見が多く見られた。年度末に各部・係で検討し、次年度へ挙げていきたい。

また、「研修・服務」も第1回より平均値が低くなった。自由記述には業務改善への課題が多く挙げられていた。今年度の取組（会議や事務作業の精選、業務の分担）を継続したり、来年度の時数を調整して放課後の時間にゆとりをもたせたりすることで、業務改善や職員同士のコミュニケーションがより図れるようになるかと考える。

全体的に特に平均値が高い2項目を下記に記す。

- ・ 安心・安全の項目2〔元気な挨拶・友達を思いやる心の育成〕
- ・ 研修・服務の項目19〔服務規律に関する研修〕

この2項目は中間評価でも平均値が高かった。自由記述でも挨拶指導への成果や不祥事根絶への意識化についての意見が挙げられていた。この高い意識をもって、継続した指導を職員全員で続けていきたい。

(2) 改善に向けた取組が必要な項目について

学部別に評価値を見た際、改善に向けた取組が必要な項目が小学部で1つ、高等部で1つあった。

小学部 ・ 地域連携の項目3〔生徒指導や進路指導等の充実〕

高等部 ・ 指導・支援の項目4〔教育課程の編成〕

小学部の「地域連携」の項目は、

「私たちは、生徒指導や進路指導等の充実を図るために、専門家や関係機関の力を積極的に活用しているか。」という質問項目のため、実習等のない小学部は進路指導や外部との協力の機会が少なく感じ、低い評価になっているのではないかと考える。児童生徒の実態をより把握できるよう、放課後等デイサービスや相談支援事業所と情報交換をしている職員も多い。現在の外部機関との連携を継続しつつ、日生面の自立や係活動、挨拶指導など日頃の指導の様々なことが進路指導に繋がることを共通理解していくことや高等部で実施している技能検定の見学等、他学部の取組を知る機会を設定・周知することで意識改革に繋がるのではないかと考える。

高等部の「教育課程の編成」の項目は、自由記述で教育課程の見直しの必要性や熱中症対策で屋外学習ができなかったことが挙げられていた。今年度、来年度に向けて年間指導計画を新書式に変更し、内容の見直しも行った。来年度は見直しした新しい年間指導計画を使用することで改善につながると考える。

8 全体を通して

第1回、第2回ともに回収率100%を達成することができた。全体的に平均値の上がった項目が多く、第1回のアンケート後、より課題意識を高くもち、取り組めた成果が出ていると考える。

一方、第1回から平均値が下がったり、新たに「改善に向けた取組が必要」に該当する項目があったりした。これらは課題意識の向上であると捉えたい。これを機に、職員間での情報交換を行い、教育活動の工夫・改善を行い、よりよい学習活動や学校運営につながるようにしたい。また、個人の意識での評価になっている意見も見られた。来年度はアンケートに答える際に、学校として他学部の取組も含めた評価をするという共通理解を図っていきたい。